

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-131654

(43)Date of publication of application : 21.05.1990

(51)Int.Cl.

H04M 1/274  
H04N 1/32

(21)Application number : 63-285398 (71)Applicant : NEC CORP  
NEC ENG LTD

(22)Date of filing : 11.11.1988 (72)Inventor : KACHI NOBUYUKI  
TERAOKA MITSUAKI

## (54) ABBREVIATION DIAL REGISTRATION METHOD FOR FACSIMILE EQUIPMENT

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To efficiently use an abbreviation dial number recording area by writing and storing an abbreviation number of a fixed length, a telephone number of a variable length and a specific data not stored in one and same memory device into the storage area of an abbreviation dial number sequentially.

**CONSTITUTION:** In the storage to a storage area, at first, an abbreviation dial number being a fixed length is stored in 2 digits among inputted data, then a telephone number corresponding to the abbreviation number stored early is stored and then a mark 'D' representing the end of the registration is stored. Thus, abbreviation numbers '02', '03', '04' are stored succeedingly similarly. In order to apply a call, when the abbreviation number is designated, the content of the first 2-digit address in the storage area is read and when the number is not the designated abbreviation number, it is repeated till 'D' appears and whether or not the content of the address of the succeeding 2 digits is the designated abbreviation number is checked repetitively.

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision  
of rejection]

[Kind of final disposal of application  
other than the examiner's decision of  
rejection or application converted  
registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against  
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-131654

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)5月21日

H 04 M 1/274  
H 04 N 1/32L 7117-5K  
6940-5C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 ファクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法

⑯ 特 願 昭63-285398

⑰ 出 願 昭63(1988)11月11日

⑱ 発明者 加 地 信 之 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内  
 ⑲ 発明者 寺 岡 光 昭 東京都港区西新橋3丁目20番4号 日本電気エンジニアリング株式会社内  
 ⑳ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号  
 ㉑ 出 願 人 日本電気エンジニアリング株式会社 東京都港区西新橋3丁目20番4号  
 ㉒ 代 理 人 弁理士 井ノ口 壽

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

ファクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法

## 2. 特許請求の範囲

ダイヤル番号を短縮して登録することができるファクシミリ装置において、複数の登録しようとする電話番号を、連続した記憶場所に格納するとき、前記記憶場所に、登録番号ごとに、第1番目に固定長データとして短縮ダイヤル番号を、第2番目に可変長データとして前記短縮ダイヤル番号に対応する電話番号を、第3番目に、前記固定長データおよび前記可変長データに使用されることがない特定のデータを、順次繰返して格納することを特徴とするファクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はファクシミリ装置に関し、特に短縮ダイヤルの登録すべき記憶場所を、効率的に使用

してデータをより多く格納できるようなファクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法に関する。

(従来の技術)

従来、この種のファクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法は、登録されるべき記憶場所を一列先ごとに一定の固定長のエリアを確保し、そこに順次格納していた。

このような格納エリアの使用例を、一固定長を16桁とした場合について第4図に示す。

第4図において、最上欄の"03A123A4567"は、短縮番号"01"に"03P123P4567"を登録したことを示し、ここでPはポーズで16進数のAに対応し各番号はそれぞれの16進数に対応する。

つぎに第2番目の欄に記号#を16進数のC、記号\*を16進数のB、文字Pを16進数のAに対応させて、短縮番号"02"として"#00\*123P4567"を登録し、つぎに第3番目の欄に、短縮番号"03"として"123456"を、さらに第4番目の欄に、短縮番号"04"として"0000000000000000"を登録する。

4"として"789012"を登録したものである。なお図中"F"は空白の未登録状態を示している。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来のフアクシミリ装置における短縮ダイヤル登録方法は、一般に使用される最も長い電話番号を想定して、登録番号ごとに記憶エリアを固定長に分割し、格納しているため、通常必要がない空きエリアが多くなる。したがって一定場所に登録できる宛先数が少なくなり、また特殊な用途で、特別に長い番号があれば、登録しようとしてもそれができないという欠点がある。

本発明の目的はこのような欠点を解決し、登録しようとする電話番号の長短にかかわらず、少ないエリアに効率よく格納できるような方法で登録するフアクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

前記の目的を達成するため本発明のフアクシ

ミリ装置の短縮ダイヤル登録方法は、フアクシミリ装置において、複数の登録しようとする電話番号を、連続した記憶場所に格納するとき、前記記憶場所に、登録番号ごとに、第1番目に固定長データとして短縮ダイヤル番号を、第2番目に可変長データとして前記短縮ダイヤル番号に対応する電話番号を、第3番目に前記固定長データおよび可変長データに使用されることのない特定のデータを、順次繰返して格納する方法とする。

つぎに、本発明について図面を参照して説明する。

(実施例)

第1図は、本発明の一実施例を示す短縮ダイヤル登録例の説明図である。

第2図は、第1図の実施例を実行する場合の一宛先格納手順を示す流れ図である。

第1図の一実施例では、1アドレス当り4ビットを使用する連続記録エリアに、短縮番号は

にステップ205～208の繰返しによつて先に格納した短縮番号に対応する電話番号を格納し、最後に登録の終りを示す"D"をステップ209～210において格納する。このようにして、ひき続き短縮番号"02"、"03"、"04"について同様に格納する。

第3図は、第1図の実施例に示すように格納された記憶エリアから格納データを読み出して発呼する場合の手順を示す流れ図である。

第3図に示すように発呼を行なうため、短縮番号が指定されると、ステップ301において記憶エリアの最初の2桁のアドレスの内容を読み出し、ステップ302において指定された短縮番号であるかどうかをチェックし、指定された短縮番号であれば、ステップ303で、その次のアドレスから順次内容を読み出し、ステップ304において"D"であるかをチェックし、"D"が現われるまでステップ305による発呼を繰返す。

ステップ302において指定された短縮番号

また、一登録番号の終りを示す特定のデータは"1101"で表わされる16進数のDとし、未登録場所であつて記憶エリアの空白状態は、"1111"で表わされる16進数のFで示されている。

このような記憶エリアへの格納は、第2図に示すように、入力されたデータのうち、まず、短縮ダイヤル番号を固定長として、ステップ201～204において2つの桁に格納し、つぎ

でない場合は、ステップ306に行つてつぎの番号を読み出し、ステップ308でデータに“D”が現われるまで、これを繰返し、データに“D”が現われるごとにステップ301に戻つて、ステップ302においてつぎの2桁のアドレスの内容が指定された短縮番号であるかどうかのチェックを繰返す。そして指定された短縮番号があれば、ステップ305で発呼する。

なお、ステップ304でデータに“D”が現われたことを検知した場合、およびステップ306で読み出した次のデータが空白状態のためステップ307で記憶エリア終了の判断をした場合は、一連の動作を終る。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、短縮ダイヤル番号の記憶エリアに、固定長の短縮番号と、可変長の電話番号と、同一記憶装置に格納されることのない特定データを順次書き込んで格納することにより、短縮ダイヤル番号記憶エリアを従来より遙かに効率よく使用することができる

ので、登録できる宛先数を多くすることができるといふ効果がある。また、本実施例によれば特殊な用途で使用する、特別長い電話番号の登録も可能になるといふ効果もある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例を示す短縮ダイヤル番号記憶エリア使用状況例の説明図である。

第2図は、第1図の実施例を用いた装置の記憶エリアに、短縮ダイヤル1宛先のデータを格納する手順を示す流れ図である。

第3図は、第1図の実施例を用いた装置から発呼する場合の手順を示す流れ図である。

第4図は、従来のフアクシミリ装置の短縮ダイヤル登録方法例を示す説明図である。

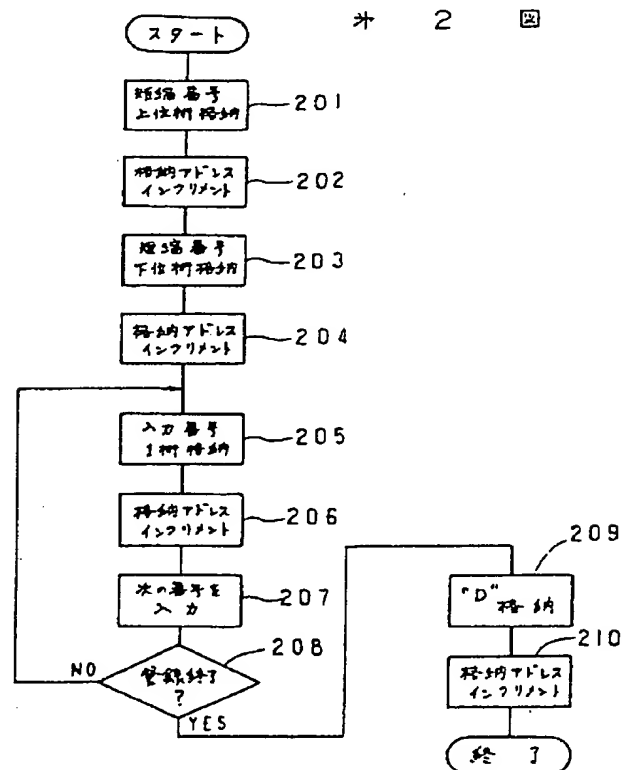
201、202、203、204、205、206、  
207、208、209、210…本実施例の装置の記憶エリアに短縮ダイヤル1宛先のデータを格納するためのステップ  
301、302、303、304、305、306、  
307、308…本実施例の装置から発呼する

場合のステップ

特許出願人 日本電気株式会社

同上 日本電気エンジニアリング株式会社

代理人 弁理士 井ノ口 壽



外 1 図

0	1	0	3	A	1	2	3	A	4	5	6	7	D	0	2
C	0	0	B	1	2	3	A	4	5	6	7	C	D	0	3
1	2	3	4	5	6	D	0	4	7	8	9	0	1	2	D
F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F

外 4 図

0	3	A	1	2	3	A	4	5	6	7	F	F	F	F	F
C	0	0	B	1	2	3	A	4	5	6	7	C	F	F	F
1	2	3	4	5	6	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	8	9	0	1	2	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F

外 3 図

